

職業と教育

第一卷 第三号

内容もくじ

指導主事に望む（巻頭言）

生活技術と生産技術……………長谷川 淳…（1）

ボストン市における

インダストリアル・アーツ……………編集部…（4）

実習方法および実習施設の改善…王子中学校…（6）

国語科の産業教材……………矢野 敏雄…（16）

増ページに協力を乞う……………（3）

用語解説・オペレーション……………（22）

著者は誰か・読者通信

研究会だより・編集後記

1953

4

職業教育研究会

指導主事に望む

職業・家庭科の振興については、教育委員会をはじめ、指導主事や校長の熱意如何が、大きく影響することはいうまでもない。殊に指導主事の指導よろしきを得るか否かは、その正しい発展に重大な関係を持つてゐる。

全般的にそんなことがあるとは考えられないが、最近ある県の教育実際家から寄せられた言葉に、県の指導主事が、職・家科について、文部省の学習指導要領から一步も出てはならないとし、自分たちの意見は少しもとり上げてくれないと訴えて来た。われわれが地方へ行つた時も、そうした声を若干聞いたことがある。しかしこれはどうしても信じられない気がする。

というのは、戦前または戦争中なら、わが国の教育は全くの官僚統制で、文部省の方針は絶対的であつたし、その上に各都道府県に内務省畑の学務部長というものがいて、教育実際家を監視していた。当時の指導員の名は「視学」といつたぐらいである。これは、ある意味では、教育が政治的にしられ、そのワクの中から一步もはみ出すことが許されな

かつたことを示している。だが今日では、常識としても、それがいかに非民主的で、教育の本道を傷つけるものであるかは明らかであるからである。

○
少くとも現在の文部省は、そうした昔の性格や考え方を持つてはならないことを原則としている。個人的に地方などに行つて、官僚風をふかす人があつたとしても、それは問題とするに足りないであらう。

たとえば職・家科の学習指導要領のばあいにおいても、文部省の方針というよりは、実際家の中から委員が選ばれ、その委員の一つの結論を「試案」として示したものである。だからその「まえがき」においても「教育実際の卒直な批判と有益な忠告を期待する」と結んである。文部省の期待しているものはより発展的な批判と忠告であつて、決してこれを天下り的におしつけようとしているのではない。(最近その批判をとり入れて、新しく通牒が出されようとしているのも、その現われであらう。)

にもかかわらず、若し前記のような指導主事があるとすれば、却つて文部省の意志に反することになるので、文部省を傘に着るといふ行き方は、この際十分反省し、認識を新にしてみたいと思う。

○
しかし、われわれはいかに逆コースの時節柄とはいえ、そうした指導主事は数えるほどしか存在しないのではないかと思うのである。その多くは、職業・家庭科がその性格や目標が明確でないことと、確乎たる見解を持ち合わせていない結果、文部省試案を持ち出しさえすれば「無難」であるとするためではなからうか。

そして、受けとる側の教育実際家が、教育民主化の信念と実践に欠けていて、指導主事の言つたことを絶対的と受けとるためではないかと推測するのである。そこにはデリケートな関係も存在するかと思ふが、こうした関係が、ますます教育を逆コースの軌道にのせ、教育官僚化への歩みを進めることを十分警戒しなくてはならない。

現に教育実際家が熱意をこめて実践し研究しているばあい、指導主事は、これに協力しその発展に大いに援助されている例を、われわれは少からず知つてゐる。

ともあれ、指導主事は、旧視学ではない。実際家の列に加わつて、共に研究しつつ指導する民主的な立場に立つものと、理解されてよいであらう。その立場から指導主事は常に教育実際家の研究をもり上げるよう配慮してほしいものである。



生活技術と生産技術

長谷川 淳

教育はもともと生活の必要から行われるようになったものであるから、生活に関係のない教育はあり得ない。ことに職業・家庭科の教育は、将来の職業生活や家庭生活と密接な関連をもつものでなければならぬ。しかしこの生活と言われるものも、それと教育との関連のしかたやその程度も一様ではなく、その生活が営まれる社会の発達に応じて変化し、歴史的時代の要求の変化に応じて行かなければならない。

職業・家庭科は、戦後行われた教育制度や教育課程の改革の際に、従来ともかく生活から遊離しがちな教育全般の課程の中で、生活と直接的な関連を保ち、それに必要な技術の習得を目的とし、身体を動かして労働一般の体験を得させることを目的として設置された。戦後の社会が立ち直りの方途も得られず、経済再建の方向も見定められず、また社会がわれわれ自身の手によつてではなく、われわれの手のとどかない強大な力や仕組によつて動かされていた。従つてその中で行われる教育一般が、社会の現実から遊離し、このものとはわからぬ民主主義一般、のぞましい社会の形成を目的と

していたと同じように、この教科も、社会の現実から離れた、仕事一般、労働一般が主要な目的とされていた。

この職業・家庭科は「生活技術」を習得するものであると一般に言われている。学習指導要領に、この教科の性格として「実生活に役立つ仕事を中心として……、実生活の充実発展を目ざして学習するもの」であり、「実生活に役立つ知識・技能」を養うものであると書かれている。この「実生活に役立つ知識・技能」がいわゆる「生活技術」である。この生活技術は、閉ぢられた狭い社会、地域社会更に学校や家庭内における「実生活に役立つ仕事」に含まれている技術である。更に、実生活に対処して起る各様の物事をうまく処理し、それを切り抜けて行く能力や態度である。このことは、学習指導要領に「地域社会」主義がくりかえして強調されているし、また実際に直面し得る限りの、あらゆる仕事に生活技術が網羅されていることによつても知られる。

戦後の教育の一般的傾向であつた生活に即する教育というのは、狭い地域社会での、その中に封建的なもの、前近代的なもの、非合

理的ものを多分に含んだ社会生活に順応し適応して行くための教育ではない。これらのものに対処し、これを打ちやぶり、これを改革して行く教育でなければならぬ。そのための教育は、狭い地域社会の生活要求に対する批判から始め、それによつて現実の生活の中に改革しなければならぬ諸問題を見出し、その問題の解決を具体化して行くものでなければならない。

この批判や改革の指標を、地域の現実の生活が根ざし、それによつて支配されている日本の国民経済の中に、求めなければならぬ。われわれが直面しているいかなる生活問題の解決も、日本の経済問題と切り離し難く結びついている。

中央産業教育審議会においても、この従来の地域社会主義と仕事中心主義のあやまりを是正するために、中学校の職業・家庭科は、「職業生活および家庭生活における基礎的な技術の習得、基本的な活動の経験とともに、それを通じて、国民経済および国民生活に対する一般的な理解を養うものであり、共働的な労働の訓練を重要視して、技術的・実践的な態度を養うものである」ことを再確認している(昭和二十八年三月九日)。そしてこの基礎的な技術および基本的な活動は、「日本の国民経済および国民生活の改善向上に役立つもの」であり、「狭い職業的な仕事や目的のない単なる仕事だけを行う」ものでないことを明確にし、また「地域社会の特色をそのまま学習計画にもち込むのではなく、国の一般的課題にてらし、……学習の結果として地域社会の諸問題の解決に役立つ能力を養う」べきことを明らかにしている。

この教科の学習指導要領を創案した一人は「……この教科の、最必要量の知識・技能・態度というようものを求める向きもある

が、それを具体的にとらえることになる」と、とらえ方が問題になる。うつかりすると、男女都鄙の別なく共通に必要なものは、たいいてい、他の教科の内容にふさわしいようなものになつてしまふかも知れない。この教科に関する限り、男女都鄙に共通に必要な内容は……農村なるが故に必要な内容よりも優先することはいい得ない」(「産業教育の現状と問題」第二編第一章中学校における職業教育の現状と問題五九頁)といい、ミニム・エッセンシアールズの測定は不能であり、それゆえに「将来の進路にかわりなく、男女すべての生徒に」という義務教育としての普通教育の性格が、地域社会主義に優先してはならないことを強調している。義務教育としての普通教育の教科に関する限り、この教科に限つて、地域社会主義を優先させるといふことはいかなる意味であらうか。たしかにこの筆者が言つてゐるように(同書三八頁)「従来の高等小学校や実業学校に対する認識が浅い」われわれ多数の職業教育の関係者にとつて理解に苦しむところである。

この指導要領の作成者たちは、中学校の職業・家庭科が実業学校の教育や高等科のようなものであつてはならないことの警戒以上に普通教育や教育の機会均等を警戒している。もとの実業教育に対する深い認識と思いやり深い改善意見とをもつて、普通教育に対する十分な警戒をもつて組立てられた教科が現在の職業・家庭科であらう。

三

従来の実業科といちじるしく形のちがつたこの教科が、その本質において極めて類似しているものであることを「認識」しなければならぬ。学習指導要領を注意深く検討し、その伏線をたどるなら

ば、そのことは明瞭になるであらう。生徒の実生活―その経験の広さ―雑多な仕事―学習のまとまり―單元―プロジェクト・メソッド―問題解決―実生活に役立つ仕事……地域社会主義―国民経済的な視野を開ざすこと―等々……勤労愛好の精神。この学習指導要領のこの教科の目標のトップに「実生活に役立つ仕事をするこの重要性を理解」させ、かさねて「勤労を重んじ、楽しく働く態度を養う」べきことを述べている。これらをたどつてみると、従来の実業科に極めて近いものであり、ただ異なるのは「実生活に役立つ仕事」や「生活技術」が「生産」や「実業」にとつて變つただけである。

現在の農村の生活についてみれば、生産の生活と家庭の生活とは一体である。家庭は耕作地の延長であり、また作業場でもある。ねむる時以外に休む時間はなく、実生活に役立つ仕事はすべて生産の仕事であり、生産技術と生活技術とは一体であり、不即不離である、と考えてよい。このような農村においては、一般に警戒されている「実業教育」という言葉を用いなくても「生活技術の学習」という新しい言葉によつて「実業教育」が可能になる。都市においては事情は全く異なる。多くの場合「生産の場」と「実生活の場」とは全く別個のものである。「生活技術」はたかだか「生産技術」の部分的な応用の技術であり、その消費者の技術にすぎない。その消費はまた極めて限定されたものである。

生産が特定の目的のために特定の人によつて営まれる生産ではなく、われわれ小国民のための、国民生活の発展向上のための生産となり、われわれ国民によつて営める生産となつた場合には、生産の生活と実生活とは一つのものとなり、「生活技術」は「生産技術」の基礎として、生徒の日常の生活の中から選出され、普通教育の内

容として編成することができらるであらう。この場合は、現在の農村における「生産技術」と「生活技術」との一致とは異つた相において一致させなければならない。（文部省事務官）

増ページに協力を乞う

誌代御送金について――

本研究会の会誌は、はじめB6判のパンフレットとして十三號まで発行し、本年二月からA5判雑誌とし、誌名を「職業と教育」として毎月刊行を予定しています。現在二十四ページが限度で、これ以上は研究会の財政ではまかないきれない状態です。新学期から発展する多くの問題に対して、これでは不十分だとの声もあり、増ページしていきたいのです。それには、従来あまり請求しなかつた誌代の納入を勵行して下さることによつて可能なのです。

つまり誌代の入つただけ増ページしていき、定価はそのまますえおきとする方針です。どうか、この際ぜひ皆さんの良識に訴えて御協力を願いたいのです。

誌代は僅かに月額二十円、なるべく一カ年二四〇円を振替で御送金願いたい。

前金切の方は通知次第、支部も五部以上の御送金と会員増加に努力してほしい。そしてお互いのものとして、育てていこうではありませんか。ぜひお願いします。

職業教育研究会財政部

（振替東京七七一七六番）

ボストン市における

インダストリアル・アーツ

(海外資料)

編集部

一

今日、ボストン市の公立学校では、インダストリアル・アーツをとりいれている。学校において、この教育を実施することによつて一般普通教育をうけつつある生徒たちが、生活し適応していかなくてはならない——科学的——産業的——原子的——時代を、よりよく理解することができるのである。

ボストン市では、インダストリアル・アーツの最初は、小学校第四—五学年においてはじまつている。そこで生徒たちは紙またはボール紙を材料として、普通教室でデスクワークを行つている。そこでは同じ材料を自由に使わせながら、生徒たちが創造的な努力をするように指導される。子供たちの小さな手が徽章・紙ばさみ・ケース・メモつづり・三角

形や矩形の箱などを上手に作つてゐる。また荷馬車・家・エスキモー人の家・風車などをつくつて、歴史や地理の研究において、クラスのプロジエクトに役だてる。模型の設計は機械製圖の一形式としてとりあげられてゐる。

材料として木材を使う作業室でのしごとと小学校第六学年ではじめてとりいれられることになつてゐる。このしごとは、産業に關係する予備的なコースといえる。男子の生徒は木工についての専門語と木工用具の使用法を学習し、かれらのめいめいの能力に応じて製作する。ここでのしごとは、個別作業であり木工の正式の訓練からは、はるかにとおいものといえよう。

二

中学校の第七—八学年の段階になると生徒たちは、電気、機械工作、印刷、ジエネラル・ショップを経験することになつてゐる。そして各学年の $\frac{1}{2}$ を一つの専門的な課程に使うのである。この段階において、木工を含む四つの領域は、ユニット実習の形で学習されていく。そしてその学習を、生徒は自己の選ぶしごとの方向をきめるのに役だてる。

第九学年の段階になると、生徒たちは一つの課程を選び、それに割りあてられたすべての時間を消費するのである。

三

高等学校の段階でインダストリアル・アーツを希望する生徒はボストン東高校、ハイド・パーク高校、ロスリンドンル高校、ボストン南高校に入学する。ロスリンドンル高校には製圖室とともに、それと同様に広じエネラル・ショップの室をもつてゐる。ここでは、電気・印刷・板金・木工などの作業ができるようになつてゐる。

つぎに高等学校における職業教育や定時制教育はどうなつてゐるかというところ、クラスは生徒たちを有利な雇用に適することを最終的な目的として組織されてゐる。

職業の教育としては、自動車の修理、電気、

キャビネット製作、室内装飾、機械工作、印刷、板金などを行っている。その組織はスミス・ヒューズ法のコーオペラティブ的なプランによつてゐる。これらのことはインダストリアル・アーツの背景は、職業的訓練のための賢明な準備であることを證しているといえよう。

生徒たちの実際の就職は平均九〇%をしめていて、かれらは、自分のしごとに執着して働いているし、多くの者は、産業上で優秀な働き手である。なかには小さな事業主となるために努力している者もある。

四

ボストン市は、産業上で多くの職業をもつてゐる市であるので、農業コースをも試みてゐる。

高等学校の男女の生徒たちは学校にくると日々、市場向の品物を栽培する農園を経営したり、家畜や家禽の飼育、酪農物の製造、花卉栽培の研究をしている。夏の休暇には、かれらはボストンから半径五十マイル以内の農園に雇われていく。ボストンの高等学校においては、農業コースも漸次成長しつつあると

いえる。

前にのべた職業的コースは、つぎの高等学校におかれてゐる。——ブライントン高校には自動車修理のコース、チャールスタウン高校には電気コース、ダーチエスター高校(男子)には、キャビネット製作と室内装飾のコースボストン東高校には機械工作コース、ジャマイカ高校には農業コース、ロックスバリー高校(男子)には印刷コース、ボストン南高校には板金と自動車車体コースなどである。このほかにブランドスの職業高校、ボストン職業高校(男女)、ボストン技術高校などがある。

〔附記〕本資料はボストン市のインダストリアル・アーツ指導課の主事である。F. G. Emery の論文 (Industrial Arts and Vocational Education 1952 の十二月号所収) から、ボストン市のインダストリアル・アーツの現状の部分を要約したものである。ボストン市でインダストリアル・アーツが学校にとりいれられたのは前世紀の末であり、それからいろいろと研究を重ねた結果現状は、ここで紹介したような形で行われているとのことである。機関誌十二号で紹介したロスアンジェルス市における、小学校のインダストリアル・アーツとくらべると、かなりの差のあることが諒解されるであらう。

原稿をかく練習

教育雑誌の編集にあたつてゐる人や、教育出版社の人によく聞か、一般に学校の先生は、ペンを持つ機会が多い筈であるのに、どうしてあんなに文章がまづいのだらうという。勿論他の社会の人に比しては、かける方であるし、全部が全部そうだといふのでないから誤解されては困る、とつけ足した。そして原稿用紙の使い方、段落のとり方、句読点の打ち方などから、誤字の多いこと、などをあげてゐた。

なるほど考えて見ると、日本の文章はどうむずかしいものはない。しかし文章をすらすらとかくことは、これから益々必要なことで、それには、あらゆる機会にかく練習をすること、人の文章の表現の仕方をよく味わつて見て、かき方の研究をするといふ。

もう一つ大切なことは、あまり固くならないこと。かく順序は十分でなくてはならないが、手紙をかくようなつもりで、あまりむずかしい字を使わずに。その点学校の先生は少しかめしくなりすぎはしないだらうか。

(A)

研究報告

実習方法および実習施設の改善

(職業・家庭科研究録第四輯 一九五二年)

大分市立王子中学校

まえがき

新しい年度を迎えて、各学校ではこれまでの実践に反省を加え、より効果的な学習指導をおし進めるためのカリキュラムや週・日案の作成に大忙であるかと思う。とくに職業家庭科のように、その基本的な動向が未だ不明確な教科においては、その努力は並大抵のことではない。

そこで編集部は、作業指導票の活用による効果的な学習指導法を研究し、多くの業績を収めてきた大分市立王子中学校の全一〇八ページに上る「研究報告」を要約紹介して、新学年度にそなえる読者諸氏の参考に供したい。

この研究は〇〇プランと称して、ぼう大な年間計画や単元展開例を網羅した、いわゆる羊頭狗肉の研究報告とはまったく質の異なるものでまことに地道な堅実な研究物である。それだけに短時日にデッチ上げた部厚い研究物から感じられる例の空虚な感じはどこにも発見できない。こういう理論的基礎の上に打ちたてられた実践的研究

こそ、現場における今後の研究方向を示しているように思われる。ただ、紙幅の関係で、割愛したり、原稿の一部を訂正したりして十分その内容を伝えることができなかった点の責任は、すべて編集部にあることを明記して、関係者に深くおわびする次第である。

(編集部)

第一 研究主題の意義

I 研究主題(実習方法及び実習施設の改善)

II 選定理由

職業家庭科における仕事に対する技能陶冶は、動的な実社会の職場に適應し、さらにこれを近代化する生活技術を育成する産業教育にまで発展させなくてはならない。

元来学校は、実生活の中では容易になし得ない基礎学習を行う目的で、生活から分離してつくられている場所であるから、この意味で学校は本来が実生活とは異なっているのである。従つて学校の中において成立する実習は、實際生活で成人の展開している技術と同

じ方式であつても、それが社会の生活技術から分離しているという
ことで、実習が基礎技術に限られることになる。むしろ基本となる
技術で、生活では十分学習できない部分を、とくに学校がとりだし
て、これを実習として学習させなければならない。中学校の職業家
庭科においてみられる実習はこの方式のものである。

しかるに、学校の中での実習では、現場をふんでいないという理
由で実生活における技術学習とは異なり、何か見失われているもの
があると考えられる。これを学習の中にとり入れようとするところ
に模擬実践があり、進んでは、現場での実習を学校実習の上に重ね
るという方法がとられるようになってきている。

したがつて今日、実習の方法及び実習施設の改善は緊急の要務で
あると考える。

Ⅲ 職・家科の実習方法はいかにあるべきか（略）

第二 研究計画

I 研究項目

研究項目	第一年度 (昭和二七年度)		第二年度 (昭和二八年度)	
	第一	第二	第一	第二
研究項目	栽培・飼育実習の 改善 施設設備の 改善	栽培実習方法と施 設設備の改善	飼養実習方法と施 設設備の改善	機械操作並びに組 立における指導票 の活用
二	家庭科実習の改善 施設設備の改善	裁縫実習法と施設 設備改善	調理実習法と施設 設備の改善	

三	事務実践の方法と 施設改善	小売商を中心とし た模擬実践	卸商を中心とした 模擬実践
---	------------------	-------------------	------------------

Ⅱ 研究組織（略）

Ⅲ 研究計画（略）

第三 研究内容

I 第一類栽培実習方法及び施設の改善（略）

Ⅱ 第二類 A

1、研究主題

木工・金工の実習方法の改善並びに施設の改善

2、問題の意義

およそ二類関係の仕事の特質は、実社会の現実においては他の産
業や職業に比べて極めて多岐分化し、専門化している点にあると思
う。中学校の職業家庭科で、これらの仕事をその未分化の状態にと
られても、多種多様であつて、かなりの知識、技術の習得をはから
ないと、生産工業一般を理解することができない。それゆえ仕事の
選択と有効な指導法とが第一の問題点となるのである。

このため、日本のあるべき姿を予想し、これが要求するであろう
と思われる諸点と生徒の発達程度並びにその必要性を考慮し、職
業分析を行つた上で職業の範囲、そこで要求される技術と知識の程
度を定め、これをもとにして実行計画を立てることが必要である。
いまさら職業分析の重要性を説かなくても周知の通りであるが、
もしこれを怠らるとしたならば、実習に必要な基礎的要素技術の指
導を脱落させたり、不必要に重複させたり、要素技術の基礎的なも
のを練習させないで特殊なものを練習させるような仕事の指導、仕

事を無秩序に排列するなど非効果的な指導に陥るのである。

だから職業分析を有効に活用しなければならぬことになるが、それはどうすれば効果的であるかという点、すなわち職業分析による指導票を作成し、活用することになるのである。この指導票を作つておくと、これによる指導は仕事がかつても適当に組み合わせると間にあふし、生徒は個人作業を行うことができる。技術的知識や社会経済的知識の指導票をも用意しておくと、まづ多くの個人指導が行えて学習活動が有効活潑になるわけである。

このような組織的、能率的指導をするためには、木工・金工などの小項目程度のもを一つのまとまりとし、製作・修理・評価・知識理解などの一連の構造的活動に仕組めば、完全に一つのプロジェクト法的実習形態をとることになり、極めて有効な学習活動を誘発することができるのである。

ここにおいて実習方法の改善と必要な効果的な施設の基準を見出すことの重要性が認められるわけである。

3、問題解決のための計画

(1) 年次計画の作成

(2) 学年の学習計画の作成

(3) 単元の具体的指導計画の作成

(4) 指導法の作成

(略)

(3)で決定した指導計画により、学習指導を実施する場合に、一段と工夫改善の必要を感じ、科学的基盤のもとに有効な活動を期し、これをより効果的にするために指導票を用いることにする。

この指導票には項目により次の四種が考えられる。

(イ) オペレーション指導票

内容 ○使用設備

○各オペレーションの段階

○使用材料

○危害予防の注意事項

○参考書

(ロ) 知識指導票

技術的知識、社会経済知識のそれぞれの指導票を作成する。

内容 ○一つの知識の項目の各條項を簡単に記載する。

○参考書

(ハ) ジョブ指導票

ある特定の製品を作る場合に必要な指導事項を全部含んでいる。

内容 ○ジョブの説明

○問題

○ジョブの明細書

○参考書

○工具と材料の表

○ジョブの段階

(ニ) 研究課題票

内容 ○原理の説明

○応用の例

○研究すべき事項

○問題解決の指針

以上の中、つぎに職業分析表(木工)を掲げ、その一部として、オペレーションでは(図面を描く)技術的知識では(製図の図法と用途)社会的経済的知識では(能率と休養)の指導票を示すことにする。

職業分析表（木工）

オペレーション	技術的知識	社会的経済的知識
①. 図画を描く 2. 材料を準備する 3. 墨付けをする 4. 木取りをする 5. 双物を研ぐ 6. 平面を削る 7. 木端を削る 8. 木口を削る 9. サンドペーパーをかける 10. 釘打ちをする 11. 組接ぎをする 12. 絃のこでひく 13. 膠付けをする 14. 溝鉋で溝を造る 15. 留接ぎをする 16. 接着接ぎをする 17. 柄を造る 18. 柄孔を穿る 19. 抽斗を造る 20. 扉をつける 21. 木ねじでしめる 22. 着色する 23. 塗の粉をぬる 24. ニスをぬる 25. 金具を取付ける	①. 製図の種類と用途、 元図、記号、規格 2. 用材の種類、性質 3. 用途木材購入の要点 4. 道具の種類と用途、手 入法 5. 木材の乾燥と防腐 6. 木工機械の種類と用途 7. 木材製品の購入の要点	①. 能率の向上 1) 能率の向上 2) 仕事と休養 3) 仕事と衛生 4) 災害防止 2. わが国の産業と職業 1) 地域社会の産業と職 業 2) 各種産業や職業の相 互関係 3) わが国の産業や職業 の動向 3. 各種産業における職業 人 1) 事業の規模と経営形 態 2) 職種に必要な身心上 の適性 3) 労働条件と採用条件 4. 雇用と職業の安定 1) 雇用の現状と将来の 見越し 2) 労働と賃金 5. 個性と適職

（注） ①のみ票を例示する。

作業分析表（図面を描く）

オペレーションの段階	工具と設備	材 料
1. 一角法か三角法かをきめる	製 図 板	製 図 用 紙
2. 構造、大きさ、寸法 } を考える 形状、品質、材料 }	製 図 器 具	
	T 定 規	
3. Scale をきめる	鉛 筆	
4. 図面を描く		

指 導 目 標

1. 一般的な図面の描き方、読み方。
2. 特に木工作業の順序、工作物の取付法を研究する。

問 題 研 究

1. 仕上図の効用を活用せよ。
2. 材料記号を例をあげて説明せよ。（ハッチング）

参 考 書

1. 基本製図法。
2. JIS、JES。

知 識 ・ 技 術 ・ 知 識 票

製 図 の 図 法 と 用 途

1. 製図用具の使用法

- 製図板 ○T定規 ○三角定規 ○コンパス ○デバイダー
○鉛筆 ○からす口

2. 製図用則

- 線の種類と用途 ○文字の種類と大きさ ○尺度と単位 ○寸法の記入法

3. 図 法

- 平面幾何画法 ○投影画法（第一角法、第三角法） ○展開画法
○スケッチ ○トレース

4. 用 途

- 木工、金工製図 ○機械製図 ○建築設計 ○店舗設計

知 識 ・ 社 会 経 済 ・ 知 識 票

能 率 と 休 養

1. 能率の向上

- JES、JISについて
○大量生産の進展はなかなか望みうすである（分業と多能工技術）
○下請、加工、修理等小規模が多い

2. 仕事と休養

- 体力を必要とするので長時間の労働はさける事

3. 仕事と衛生

- 呼吸器病になりやすい

4. 災害防止

- 労働基準法の保護を受ける
○刃物や工具の使い方
○工作機械の操作法

つぎに掲げるのは、単元「家具の製作」における作業指導票と知識指導票である。(横書きの表を縦組み文章に改めた)

家具の製作 (本箱を作る)

目標

- 1、木工作業の基礎的技術を練習し、新しい要素作業を習得させる。
- 2、木工関係の技術的知識及び社会経済的知識理解を持たせる。
- 3、計画的に作業し、正確に能率的に進め、安全に処する態度を養う。

作業指導票——本箱を作る(所要時間十八時間)

(A) 工具と設備

- | | | |
|----------------|--------|---------|
| 1、曲尺、折尺、定規 | 7、摺り台 | 13、ドライバ |
| 2、鉛筆、すみつぼ、すみざし | 8、木口台 | 14、容器 |
| 3、砥石 | 9、ペーパー | 15、刷毛 |
| 4、かんな | 10、きり | 16、布 |
| 5、けびき | 11、木杵 | 17、皿 |
| 6、かなづち | 12、のみ | 18、タンポ |

作業順序

- 1、図面を描く
- (1) 投影図法を決定する
- (2) Scale を定める
- (3) 工作図を描く
- 2、材料を準備する

(1) 材料表を作る

(2) 材質をしらべる

(3) 材料を購入する

3、墨付けをする

(1) 一つの材料から多くの製品のとれるように工夫する

(2) 工作物がもろくならないよう、また容易にできるよう位置を考える

(3) 工作図を現尺図に直し、板取り線を描く

4、木取りをする

(1) 使用鋸をきめる

(2) 挽き口を指で固定する

(3) 線の外側を正しく切る

(4) 挽き終りを手加減してきれいに切る

5、双物を研ぐ

(1) 双物を先ず荒砥で大体を研ぐ

(2) 次に中砥で研ぎ、仕上砥で仕上げる

注意 1、双先の折れた時はグラインダーでまず双先をそろえる

2、裏出しは金砥で金剛砂をおき研ぐ

6、平面を削る

(1) 材質と板目、表裏を見分ける

(2) かななの双を出し、おさえ金を調節する

(3) 平面に削る、途中常に平面をたしかめる

○荒削りは自動送鉋でかける

7、木端を削る

(1) 所定の寸法にすみつけする(またはけびきで巾を合せる)

- (2) すり台を工作台の上におく
- (3) 平鉋または長合鉋を横にして削る
- (4) 削った面を平面に対して直角かどうかたしかめる
- 8、木口を削る
- (1) 木口台を準備する
- (2) 板の木口をちよつと水にしめす
- (3) 板を木口台にのせ、平鉋を横にし、すみつけに留意しながら削る
- (4) 木口の終りで削らず、両方から削る
- (5) すみつけの所まで削れたら止める
- 9、サンドペーパーをかける
- (1) ペーパーを準備する
- (2) ペーパーを適當の広さに切り、こすりやすくする
- (3) 板目にそつて粗面を注意してこする
- (4) 板面が大体きれいになつた所でこすりやめる
- 10、釘打ちをする
- (1) 釘打つ位置をきめ、道穴をきりでもむ
- (2) 板の厚さの約三倍の釘を準備する
- (3) 打ちつける板を正しく位置させる。この時片方を受けさせる
- (4) 打ちこむ打ちあとを作らぬようにし、頭を直しておく
- (5) 庭板に制板をまず釘付けする
- (6) 側板、天板を釘付けする
- (7) 棚板を釘付けする
- 11、接着接ぎをする

(B) 材 料

- (1) 木枠及びクサビを準備する
- (2) 両板の木端を正しく削り、のりをつけ、枠に入れ、しめつける
- (3) 数時間放置し、接着部がかたまつてからとり出す
- 1、杉板 $0.6 \times 0.7 \times 1.00$ 2枚
- 2、釘、木ねじ $0.3 \times 0.6 \times 1.00$ 1枚
- 3、のり 5、硝子 8、との粉
- 4、蝶番 6、茶粉 9、ニス
- 7、ニカワ
- 12、抽斗を作る
- (1) 底板を削り、側板、背板、前板の順で作る
- (2) 前板の裏面を隙鉋で仕上げる
- (3) 前板に底板、側板、背板の順に釘付けする
- (4) できた抽斗を挿入して見て正しく入るよう調節する
- 13、扉をつける
- (1) ちようつがいをとりつける位置を考え決める
- (2) ちようつがいをとりつける位置をかき落す
- (3) 扉及び扉を枠木にねじくぎでとりつける
- 14、木ねじでしめる
- (1) 所定の所に道穴をきりでもむ
- (2) 木ねじを挿入し、ドライバーでしめる
- 15、着色する
- (1) 容器に茶粉を溶かす
- (2) 刷毛または布でむらのないようにぬる
- (3) 板目の甚だしいものはとの粉にまぜてぬる

16、との粉を塗る

- (1) との粉を粉に碎いて、容器の中でニカワ水等で泡状にとかす

- (2) 板目に布でこすりつける（円運動で）

- (3) こすりつけたとの粉を半乾きの時ふき落す

17、ニスをぬる

- (1) ニスを皿に少量ずつとり出し、刷毛またはタンポでうすくぬる

- (2) 塗った面をペーパーで滑らかにし二〜三度ぬつて仕上げる

知識 指導票 （家具の製作）

18、金具をつける

- (1) 金具の大きさと位置を決める
- (2) 金具とりつけの道穴を穿り、木ねじまたはボルトで止める

本立工作で上がり図

（省略）

技術的知識

社会的経済的知識理解

1、製図の図法と用途

- (1) 製図用具の使用法
- (2) 製図規則
- (3) 図法

(4) 用塗

2、用材の種類、性質、用途

- (1) 用材の種類
- (2) 性質
- (3) 用途

3、材料購入の要点

4、木材の乾燥と防腐

- (1) 自然乾燥法
- (2) 人工乾燥法

- (3) 防腐（特に、ニスの塗り方、着色の仕方、との粉のぬり方）

5、道具の種類と用途、手入法

- (1) 規矩類（特に定規、けびきの使用法）

- (2) 作業台（特に木口台の使用法）

1、能率と休養

- (1) 能率の向上

- (2) 仕事と衛生

- (3) 災害防止

○刃物や工具の扱い方

○工作機械の操作法

2、わが国の産業と職業

- (1) 地域の産業と職業

- (2) わが国の産業や職業の動向

○全国工場従業員数

○全国の木製品の分布

○合板整形の高周波加熱

- (3) 鋸
(4) 鉋 (特に溝鉋、際鉋の使用法と手入れ法)
(5) の み (6) 小 刀 (7) き り (8) 槌
(9) 雑工具 (特に、ねじまわし・くぎしめ・バーバー・にかわつば等の使用法)
6、木工機械の種類と用途
(1) 丸 鋸 機 (3) 自 動 鉋 (3) グラインダー
7、木材製品の購入の要点

- J I S について (工業標準化法)
3、各種産業に於ける職業人
(1) 事業の規模と経営形態
(2) 職種に必要な身心上の適性
(3) 労働条件と採用条件
4、雇用と職業の安定
5、個性と適職

実習成績評価について

1、概 要

評価の意義については既に衆知の通りであるが、現在その方法においてはまだ不十分な点が多いと思われる。

そこで、将来の就職または職業指導の資料ともなるように工夫してここに職業分析を応用して研究した方法を説明します。

2、方 法

当校においてはその目標を大別して実技、理解、態度の三項目とし、それぞれの目標にしたがつて評価の方法も異なるのであるが、その中二類関係の課程においては第一に目標となるものは実技である。特に日々の実習の中で、オペレーションの上達が問題となるのであつて、行うジョブを取りあげる必要はない。

(1) 実技について

評価の要素としては、進歩表、実習成績経過表を基礎として技能の程度を総合的に評価するのであるが、この中には操作、取扱正確、速さ、きれいさ等を考えねばならぬ。

(イ) 進歩表 (様式 1)

職業分析で研究した進歩表を作り進歩の程度を記入するのであるが、その記入は

- 1 …… 非常にまずい 2 …… やゝまずい
3 …… 普通にできる 4 …… やゝよくできる
5 …… 予期以上にできる

で主として教師用評価表であります。

(ロ) 実習成績経過表 (様式 2)

三年間通じて記入し、生徒の自己評価表とするもので、内容は単元の展開により進歩表の記事に各オペレーションの実習時間を加えて記入する仕組です。これによつて実技の評価をするが、個人の進歩の程度を、時間によりつかむこともできる。

(2) 理解について

主としてバーバーストに依る。

(3) 態度について

日常の観察による外なしと思われ、実習日毎に五段法で進捗表に附記する。ただし顕著なもののみを主体とする。

国語科(中学校)の産業教材

いかなるものを取り上げているか

矢野敏雄

一
昨今「産業教育」とか「生産教育」のテーマのもとにいろいろと論議がとりかわされているが、その重要な課題に対して国語科の教育内容はどうか。というのは、国語科は国語科として本来独自の学習目的を持つて

いるが、その教材として産業に関係のある教材がどれくらいとりあげてあるだろうか、あるとすれば、どんな産業関係の教材であるかなどについて、国語教科書の教育内容の調査を中心に、一、二問題をとりだして報告してみよう。

ところで、ここに使用した教科書は中学校一、二、三年の教科書で、「総合教科書」の五

種類である。いわゆる文学と言語を総合した教科書は現在九種類発行されているが、すべて各学年とも上下二冊で、三年間に計六冊を使用するわけである。以下、教科書はA B C D Eの記号を使用し、書名にかえたことを断つておく。

二

まず順序として、他教科と関連する教材を取りあげてみよう。実際に教材にあたつてみて、関連ということを考えると、

- 1 他教科の理解、能力、技術に属する教材
- 2 他教科の理解、能力、技術に役だつ教材
- 3 他教科の理解、能力、技術に必要な教材の三つにわかれるようである。これに關して

は学習指導要領に、

「国語の教育課程は、他教科から孤立することなく、全体の学校計画の中で、固有の地位を占めなければならないようになってきた。」(五ページ)とあるが、ここでは触れないでおく。

そこで、教科書において、他教科と関連する教科数と全教材にたいする割合を示すと、つぎのようになる。

- | | |
|-------|----------|
| A 教科書 | 三七(約二〇%) |
| B 教科書 | 四二(約三四%) |
| C 教科書 | 一九(約一九%) |
| D 教科書 | 二二(約一九%) |
| E 教科書 | 三三(約三二%) |

これによると、教科書BとEが三〇%を超える比率を示して、他教科書A、C、Dを引き放し、おのずから性質の異つてゐることを予想させる。客観的にみれば、教科書B、Eが関連教材の面において、より積極的な態度を示しているといえ、教材の選択による他教科との有機的な学習の展開を企図しているといふことが考えられよう。これを裏づける事実として、B教科書では、このことについてはつぎのべている。

つぎにどんな教材が、各教科に関連しているかを表に示してみよう。

	D	C	次郎君へ
心の図書館の話 道具と機械 サハラさばく モンゴルのお正月	学窓風景 新聞とはどんなものか 心の小道 トシネル 雑誌の編集を語る 化石採集報告 新聞記事の例 社説の例 きよらの勉強	雪の新聞使命 社説短評記事 小さいカメラ 国語国字問題研究機 閑設置について 伊能忠敬 集落の研究 母の死とその後 手と頭について 動物の飼育 伊能忠敬 と伊能忠敬	日記 自分達で作る学級新聞 黄腰じかばちの巢作 集落の研究 動物の飼育 母の死とその後 クラス雑誌の編集
かまきりの飼育 バラハキリバチの習性 なぞを解く喜び 自転車に乗るとなぜ 楽か	夏の小半日 あげはちよりの生態 ノーベル伝 コペル君の発見 きよらの勉強		
道具と機械 新聞記事のできるまで	私たちの学級新聞 私たちの印刷 雑誌の編集を語る トシネル 私たちの学校新聞が できるまで 映画のできるまで		
心のかわって ミレートの発奮 つくる心味わう心	運動会のポスター		
歌の王シューベル ト 英雄交響曲			
美しい学校の生活	あがるな		山ぐつ

6 電気ガス水道関係

A 教科書 緑の小箱

7 サービス業

A 教科書 伝書ばとの話を聞く会

B 教科書 むかしの旅行・秒の戦い

D 教科書 映画のできるまで・海の見える

ホテル

E 教科書 新聞記事のできるまで

8 その他

B 教科書 一つの発見

となり、以上が大体五つの教科書にとりいれられていた産業教材である。題名からは理解のできにくいもの二、三についてその教材内容を解説することにより。

緑の小箱

映画のシナリオ。船乗りを父に持った子と母の二人暮らし。ある日、子は父宛の手紙を書き、箱に入れて川の流れに託す。箱は川を流れ、映画はそこから色々なシーンを展開する。カメラの目は流れる箱を追いつながら、伐採せられた木材の集積所、ダム、発電所、そしてその内部の生活を写しとらえる。わたし場附近、川口の漁師町の光景、燈台のある海岸から、やがて海上の捕鯨船に場面は移動する。船での一事件は島に漂着した男を救助す

ることである。しばらくは捕鯨活動のシーンである。港について鯨の腹中から箱が出て来た。救助された男は自分の作った箱だと知り中の手紙を読む。かれは小箱を流した子の父であつた。山への帰途、町、村を通り、そここの風物になつかしい故郷の香を感じつわが家に至り、妻子に対面する。様々な社会で働き働く人々の生活が写し出されているのである。

文明のめざすもの

谷川徹三氏の文。ある高層建築物の設備を目撃したことから、文明は自然を遠ざけるものではないことを論じる。そして機械が手で使う道具の発展したものであり、現在、機械の恩恵により、人間が過去の労働から救われていることの多さ、そして機械の文明がわれわれの生活を合理化して行くことを論じて文明の方向を示している。

以上の教材のうち時代史的なものとしては「むかしの旅行」と「箱根用水」だけでありあとは全部現代のものである。教材の多い産業部門から見えて行くと、

土木建築業 七
サービス業 六
農業 五

水産業 四

製造工業 三

林業 一

電気ガス水道 一

その他 一

となる。鉱業、運輸通信、公務に關係する教材は見当らない。

これらの産業教材が教科書に占める割合をその全ページ数から求めてみると、

A 教科書 (約4%)

B 教科書 (約8%)

C 教科書 (約5%)

D 教科書 (約3%)

E 教科書 (約1%)

である。

このことから理解できるように、総合的に国語科の産業面に対する関心の程度は低い。

またとりあげられている産業教材をみても日本の現在および将来の重要産業である鑛・工業部門や運輸、通信部門が消費的なサービス部門にくらべて少いことは、産業教育の視点からいつて妥当とはいえないだろう。

(国学院大学教育学研究室)

× × ×

東京堂や三省堂という大きな本屋の、ほんの一部を占めている教育書の戸だなを見ただけでも、その数のおびただしいのに驚くであろう。その中には、ずいぶん下らない本が、出版商業資本の手でお化粧してゐらつて、大きなツラをしているものもある。もつとも、下らない本でも読み方で役にも立つのだから、出版洪水は必ずしも悲観するには当るまい。たゞあまり本作りの内面に通じない多くの読者を迷わしたり、誤らしたりする点で嘆かわしいだけである。

▽

出版社が売るために用いる手の中で、最も多いのは、文部省その他の役人、何々大学教授という肩書のついた著者、つぎにとびつきそうな題名、それから最後に内容である。内容第一という出版社は、よほど財政的にしつかりした良心的な出版社で、そうした本は全体からいつて非常に数が少ないというのが、日本の出版界の現状である。

これは出版社側にいわせると、読者がそれを求めたり、一寸迷わせることができるからだそうである。結局は日本人の文化水準の低さによるといえるし、文化を商業資本の

手にゆだねている社会機構の結果といわなくてはなるまい。

▽

最近私は文部省の役人その他の人によるある本をもらつて、その内容をめくつて見ると、何とその半分以上が、地方実践家の案をそのまま転載しているものであつた。

それはそれとして、とりようでは参考にならないこともないが、著者というのは一体だれだ。落語に、その行き倒れは俺だ、

◇著者は誰か◇

ではこの俺は一体だれだというのに似ている。材料を実践に求めるならその方向を批判し、著者の識見が示されなくてはならないが、それがゼロなのである。よくまあ、これを著書として明るみに出してはくさくないものだ、その心臓の強さにへキエキした。

▽

私なども地方の実践家から、ぼう大な刷ものを寄せられ、それは全部保管しているが相当な量に上つている。これらの刷物は

貴重な時間と金のかかつたもので尊いものではある。しかし決して全部が全部完全とはいえない。いや研究の一過程であつて、それを手がかりとして更に向上したいという意味で公にされたものと思う。私たちに見せるからには、批評を求め、更に正しい方向を示してくれという意味だろうと私は考えている。

しかし事實は、あまり批評したり、欠点を指摘することは好まないらしい。役人の肩がきや教授の名で出された著書でとり上げられるならこれ位光榮なことはないと思つているのかも知れない。その心理をうまく利用されているようにもとれる。

その結果、本を買わされることになり、他人にも見せて誇りとする。たあいもないことにも考えられるが、問題は、その本を読んで何人の日本の教育家が向上するかである。著者の良心の問題である。

かくて下らない本が、新しい何とか教育などと、顔にだけはよさそうな札を下げて少しも新しくない、しかも人のやつたことを借用して登場する喜劇、いや情けない実状とはあいなるのである。(目明八五郎)

用語解説

オペレーション

(要素作業)

オペレーションは、あるものの製作・修理などの仕事の単位で、**描写**(設計・製図・スケッチなど)、**成形**(加熱・熔接・鑄造・曲げなど)、**形削**(孔あけ・旋削・かな削り・やすりがけ・リーマ通しなど)、**組立**の仕事の単位である。このオペレーションを識別する要点はつぎのようなものである。

(1) 画一的な内容を持ち、一つの職業(作業)では歴史的にも地理的にも一定である。
(2) それを完成したときに、ある到達点に達したことを意識させることができる明確な仕事の単位である。

(3) 一つのオペレーションは単独ではあまり意味がなく、他のオペレーションと組み合わせたときにまとまった仕事ができ、大きな価値があらわれる。

(4) 他のオペレーションと組み合わせたときに、オペレーション相互の間に間隙もなく重複もなくさらに重要なものを製作し修理する

ることができる。

(5) 描写・成形・形削・組立の仕事である。
(6) 明確な進行の段階に分けられる。

(7) 教えることができる内容を持ち、その内容の長さは学校の授業に適する程度のものである。

オペレーションの例

円弧を描く側面図を作る・地取りをする・つちで打つ・型わくに型込めする・熔接する・タップでねじを切る・やすりをかける・リーマを通す

下型の上に上型を作る・モーターにはけを取り付ける など

技術的職業(作業)は、手の技能だけでなく、その仕事を遂行するのに必要な、あるいはよりよく遂行するのに役だつ知識を含んでいる。これが**関係知識**で、手の技能を教えると同時に、また技能を教えながらやるべきものである。

この中、**技術的知識**は仕事を行えばいかに仕事に対する正しい判断を形成するために知っていなければならない知識で、数学や理科に関するもの、その職業(作業)の技術学に関するもの、危害予防に関するものなどである。

以上に説明したオペレーションと関係知識を、それぞれの部門の各ブロックについて析出する。

機械工作部門の各ブロックの例

鑄造・木型・手仕上・穿孔・火造・熱処理
機械材料の試験・熔接・旋盤・形削盤・平削盤・フライス盤・研磨盤・測定・プレスなど

それにはまず、オペレーションの系列について必要な手続きをとる。すなわち、一つのブロックの中で行われるオペレーションを、その行われる頻度数に従って配列換えを行うその方法としては、一つのブロックの中で考えられる代表的な仕事(ジョブまたはプロジェクト)をひろいあげる。そのそれぞれのプロジェクトの中にどんなオペレーションが含まれているか、そのオペレーションを析出する。そのオペレーションを頻度数の順に並べ換え、プロジェクトは頻度数の多いオペレーションを含み、含まれるオペレーションの数の少ないものから多いものへと配列する。その配列換えを終つた一例は、中学校学習指導要領(職業・家庭科篇)九四―五ページに示されている(**フリックランド法**とよばれている)。

このようにして得られた順序に従つてプロ

ジェクトを行えば、頻度数の多いオペレーシ
ョンをくりかえして行うことができ、つぎつ
ぎに新しいオペレーションを附加していくこ
とができる。頻度数の少いオペレーションや
複雑なプロジェクトは適宜に加除できる。

しかし、上に述べたような頻度数に従つて
オペレーションの順序を変えて指導すること
は、どの部門の仕事においてもできるとはか
ぎらない。機械工作や木材工作の仕事以外の
複雑で総合的である作業は、このような配列
を行わずに、むしろ作業の工程順あるいは理
論的な体系に従つて並べることが適切であろ
う。

関係知識の項目は、それぞれのオペレーシ
ョンにもつとも密接に関連する箇所において
指導すればよい。

現在の日本のように施設その他において実
習の便宜を十分得られない条件においては実
習は不可能であつてもどうしても知らねばな
らない知識や、将来の日本の産業を科学的に
高めるために必要な知識や、日本の産業の将
来の目標や理想を立てるために必要な産業の
基礎構造の分析についての知識は、それぞれ
のブロックまたは単元のところに含めること

が必要である。

このようにそれぞれの部門において必要と
思われるブロックを設定し、各ブロックにつ
いて上に述べた分析を行い、一つの部門にお
ける各ブロックの位置や重要度や相互関係を
考え、また学習時間を考慮し、それぞれのブ
ロックについて必要な学習内容を選択するこ
とが必要である。このような手続きをへては
じめて適切な教科課程の構成ができるのであ
る。(高等学校学習指導要領工業科編より)

寄贈資料

職業家庭科教育課程

高知県幡多郡中村中学校

生産教育の学習指導

山形県東田川郡藤島中学校

職業家庭科の実際

島根県邑智郡君谷中学校

職業教育の実際(第二集)

石川県鳳至郡諸橋中学校

生産教育(季刊・教育学第三号)

東京大学教育学部研究室編

産業教育振興法の成立と課題(細谷俊夫)
が大いに参考となる文献である。また、中学
校の生産教育(清原道壽)は、職業・家庭科
の産業教育的任務を明確にしている。その他
資料多し。(価一五〇円)

既刊分主要目次(各冊二十円)

二月号

職業指導の問題点 (後藤豊治)

職業指導の運営 (古屋正賢)

ポリテフニズムの動向 (長谷川 淳)

三月号

職業科一カ年の歩み (池田種生)

産業教育座談会 (杉江課長他)

内地留學生の回顧 (中岡修也)

次号(五月号)は

家庭科教育協議会特集

× × ×

本研究会編集(立川図書版)検定教科書の
「教師用・指導の要領増補」ができました。
採用校に一部宛贈呈します。

読者通信

▽職業科と家庭科の分離

現場教師の悩みと実践から考えて見て当然のことである。職業教育は生産のための技術教育でなければならぬ。日本の平和生産のミニマムなものをおさえ、そこから眞に中学校の基礎教育としての民族教育が具体的に展開されるべきではないか。

家庭科は消費面として、男女共に教育され生産のための消費として考えられた時、具体的な民族教育がうち出されるのではないか。私たちのなさねばならないことは、子供を守る平和と民族の独立自由を志す教育でなくてはならないと思う。

(愛媛県城辺中学校 本田南城)

▽東京都が最も低調である

講習会に出席して見て東京都が全国で一ばん職・家の教育が低調であることを痛切に感じた。

(東京都大泉中学校 古厩清美)

編集子より——御指摘の通りで、全く遺憾の外ありません。少しやつている中学校といえ、旧郡部の方で農耕が行われたり、中央で商業的なもの(簿記・ソロバン)を

職業教育と考えている程度のもので、その原因には色々あります。進学に力を入れるという悲惨な事実がよくあげられますし設備のないこと、指導者がいないことなども、その理由にあげられます。この大工業都市で、重要な工業的技術が全く行われていないことは、日本の教育がいかに逆転していて情ない状況を物語っています。ところで、この際特にいいたいことは、教育委員会指導部の貧弱さ、職業指導と職業教育を混合した古い職業教育観から、校長も職業教育当事者も脱していないことをあげたいと思います。そのために今度産業教育中央審議会で新しく打ち出したこの教科の考え方をよく玩味してほしいと思います。そして東京の実践家が、周囲に圧せられることなく、もつと熱心に研究を進めて頂きたい。われわれの研究会にもやつて来て、大いに吸収してほしいと思います。やろうと思えば、いくらでもやれる。特に若い人たちに要望したい。

▽校長と教育委員会に働きかける

新制中学校の職業科経営に就て校長を啓もうし、各町村の教育委員会に働きかけ、よく認識してもらいよう、全国的な運動を行って

きである。(大分県五和中学校 長順一郎)

編集子より——このことは、よく訴えられることであり、教育委員会や校長の認識の必要なことは、巻頭言でも述べた通りです。全国的な啓もう運動ももちろん必要です。しかしこのばあい、各地の実践家の熱意と実的な力(実践)がものをいうと思っています。つまり下からのつき上げ戦術はいかがでしょう。自信をもつて、新しい境地を切り開いて下さい。若い時代を情熱を傾ける実践(たえずのびるもの)は、いかに困難でも、あなた自身に大きな価値となるのではないでしようか。

▽指導要領のつきからつきへの改訂

われわれは、つきからつきへの変更で、不得要領のまま進まねばならないのは困る。

(宮崎県南郷中学校 山下忠一)

編集子より——文部省の学習指導要領を固定化して考えるのは間違っています。それは民主教育以前のこと。悪いものは、大いに改訂を求むべきです。間違つたものや悪いものは、改訂されない方がどれくらい迷惑かわかりません。誤りと知つたら改めることはばからぬのが、眞実に忠実な道です。それにとらわれないように。

研究会だより

新学期を迎えて、いよいよ年間計画において、そのことと思う。

本研究会でも、今年度こそはとハリきつてゐる。何よりも、一部の方にお知らせしたように、文部省で産業教育中央審議会を経て、現在のコースオブスタデーに新しい解釈を与えようとしており、まだ不明確な点が少なくないが、われわれが主張して来たことが、多分におり込まれている点で注目される。

職業家庭科の中の職業コース、家庭コースの学習系列を分離する線が打ち出されたについて、早速前号予告通り三月廿七、八の両日家庭科協議会を開いて、ある程度の成果をあげた。その詳細は、五月号で発表の予定である。

この産業教育中央審議会案については、いづれ近く通牒として出されると思うが、表現がはつきりしていないので、それをいかに解すべきかについて、解説した小冊子を作り次の号の附録として発行する。本誌々代納入者へは、もれなく送附するが、希望の方があれば郵券八円送附あれば贈呈する。

○ 今後は毎月二回定期研究会を開いていく。

内地留学生諸君も十名ほど参加されることにしているが、地方の方も上京の時など随時参加して下さるとよい。(第一、第三土曜日午後三時から)の予定)

本研究会指選校も大体内定している。すでに十分連絡があつて相当の成果をあげていらる学校と、これからやろうとされている学校にわけて計画している。

地方講習会も四月から従来通り開催するつもりであるから、遠慮なく申込みたい。

編集後記

▽本号は、四月新学期なので、大いに計画的なものと思つたが、予想通りにはならなかつた。長谷川氏の論文は、まだ混乱している生活技術と生産技術に、一つの見解を与えるもの。

▽それを具体的に、実践的に示したものが、大分市王子中学の「研究報告」といえる。その全部は到底掲載し得ないので、重要な部分を紹介した。これはお座なりの研究ではなく、長い間の努力と検討を経たもので、新学期の発足に当つて、各学校で参考になるものと思う。

▽文部省試案でいう「実生活に役立つ仕事」観からは、これだけのものは生れて来ない。

もつと重要な産業に根をおろした技術をひき出して来ることの必要を、この研究は示している。ポストンのインダストリアルアイツの場合も同様の意味で、他山の石となるであらう。

▽矢野氏は、まだ若い学徒であるが、国語教材の中から産業関係のものを引出す研究の一端を発表した。いかに現在の教育内容で産業関係が未開拓かを見るためである。今後、他教科について、この研究はつづけたい。

▽編集部は、読者各位からの反響、投稿、研究物の送附をお待ちしている。参考となるものは、どしどし紹介していく。

▽別掲財政部提唱の通り、誌代を納入して下されば、さらにページ数も増し、内容の充実が図られる。挙つて御協力下さるよう編集部からお願いしたい。

昭和28年3月28日印刷【金二十四】
昭和28年4月1日発行 (附録共)

編集兼
発行者 池田 種生

東京都中央区銀座東五ノ五
立川ビル内

発行所 職業教育研究会

電話銀座四〇〇八二番
振替東京七七一七六番

(新刊)

大分大学
助教授

後藤豊治

宮城県
指導主事

小野禎一共著

(職業教育研究会推薦)

職業指導新論

A 5 判上製本
三百二十余頁

定価 三〇〇円

(〒 四〇円)

▽推薦の言葉△

(前略) 小野指導主事は私の最も親しい同人の一人で、理論的研究を積むと同時に、現場においてそれを忠実に実践している実家です。現今最も関心事である二三男指導に焦点をおいて、豊富な実例を用意して平易に書いていられる。そのみならず広く一般青年の職業指導に好適な資料を提供されているものとして、広くおすすしたい書です。

文部省職業教育課 水谷 統夫

職業指導も現在のままでは少しも発展しない。後藤氏は長年の実践と、科学的研究に基づいて、現状を批判し、将来のあり方を示そうとしている。これまで出た職業指導の本に見られない新理論が展開されている。ぜひ一読をすすめたい。

東京都教育庁主事 杉山 一人

(目次概略)

前篇 職業指導の現状 (小野氏執筆)

第一章 職業指導の計画と実践

第一節 職業指導の組織

第二節 職業指導の年間計画

第三節 職業指導主任の任務

第四節 諸調査と諸検査

第五節 校外実習

第六節 現場見学

第七節 職業情報の提供 (以下略)

第二章 小学校と高校の職業指導

第三章 中学校職業指導の留意点

第四章 職業指導の反省

第五章 農村青年職業指導の課題

第一節 現世相と農村二・三男問題

第二節 農村における職業指導の必要

第三節 農村職業指導の基底にあるもの

第四節 農村職業指導の課題

後篇 職業指導の問題点 (後藤氏執筆)

第一章 職業指導とは何か (項目略)

第二章 わが国職業指導の史的発展に見られる特質と問題 (項目略)

第三章 職業指導の各分野における問題

1、職業情報提供の意義

2、啓発的経験と自己調査

3、個人資料蒐集の意義

4、職業相談における問題

5、配置(あつせん)の問題

6、追隨指導の問題

第四章 職業指導計画

ガイダンス・プログラム

1、職業指導計画の基本的視点

2、職業指導計画の編成 (以下略)

◎本書によつて新しい指導理論を!

東京都中央区銀座東 5 の 5
振替東京 83314 番

立川図書株式会社